

東京学芸大学

「多摩川バイオリージョンにおけるエコミュージアムの展開」

東京学芸大学環境教育実践施設教授 樋口利彦 氏



東京学芸大学が取り組む教育GP 持続可能な社会づくりのための環境学習活動 —多摩川バイオリージョンにおけるエコミュージアムの展開—

期間:平成17年10月～平成21年3月



この取組のねらいや特徴は？

環境学習と地域活性化を結合させ、持続的な地域社会
づくりに寄与すること

本学の授業を通じて、またその他の学習活動を通じて、
※学生が地域のステークホルダーと連携しながら探究学習を展開
※その地域のエコミュージアムの形成・発展への寄与

多摩川バイオリージョンにおけるエコミュージアムのネットワーク
※各地域でのエコミュージアムをつなぐ
※情報のネットワーク、経験の交流を促進する

多摩川バイオリージョンにおける持続可能な社会づくりに寄与する
地域と連携した大学教育のあり方やその改善の指針を出すこと

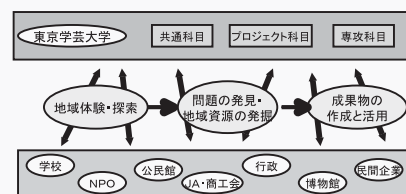


具体的には何をするのか？

- 大学の授業
地域の現実世界をテーマにした授業
フィールドワーク
地域との連携を模索する授業
- 講演会やフィールド見学の企画・実施
- 情報ネットワークや交流の機会提供



期待される学習の展開過程



例:農村生活をテーマにしたエコ ミュージアム



多摩川



中流:稲城市

河口:羽田付近



今回の取組における
環境学習の捉え方

- 環境のための学習活動(自然保全、大気・水・土の保全、ごみ・リサイクルなどの学習)
- 持続可能な地域社会のあり方と関連する課題も。例えば、、、
まちづくり、過疎と村おこし、伝統文化、子育てと教育、障害者、高齢化などの課題も。

現代GPに参加しているプロジェクト
学習科目

- 多摩川流域における知的探検(小泉、大石、古田、鉄矢)
- 「東京の自然・文化」-「住み続けたい地域」の学び(樋口、小川、原子、吉富)
- 地域のなかの今どきの子ども-その学びと遊びの世界を探る-(中澤、藤井、腰越、及川)
- フィールドワークへの誘い: <まち>のモザイク-住む・学ぶ・生きる-(高田、清水、椿、牧野)
- 多摩川流域の自然史(松川、犀川、狩野、高橋)

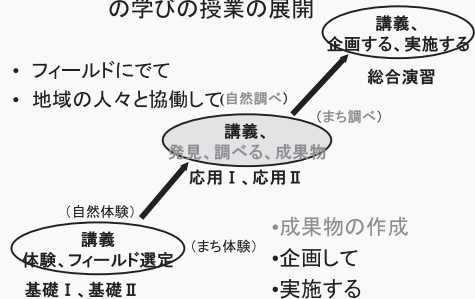
専攻の科目

- 環境倫理と自然保護(小川)
- 生態学概論(小川)
- 野外活動指導法(小川)
- ピオトープと生物資源保全実習(木俣)
- 環境教育概論(原子)
- 緑地環境論(樋口)
- 生活科学研究(福地)
- 水圏生物学(真山)
- インタープリテーション入門(吉富)

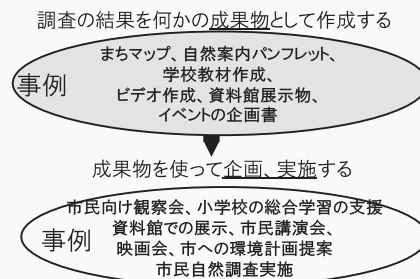
現代GPに参加しているプロジェクト
学習科目

- 多摩川流域における知的探検(小泉、大石、古田、鉄矢)
- 「東京の自然・文化」-「住み続けたい地域」の学び(樋口、小川、原子、吉富)
- 地域のなかの今どきの子ども-その学びと遊びの世界を探る-(中澤、藤井、腰越、及川)
- フィールドワークへの誘い: <まち>のモザイク-住む・学ぶ・生きる-(高田、清水、椿、牧野)
- 多摩川流域の自然史(松川、犀川、狩野、高橋)

「東京の自然・文化」―「住み続けたい地域」
の学びの授業の展開



応用において学生が目指す最終的な目標、課題



事例:授業の成果物
としての緑地紹介パ
ンフレット



いくつかの課題

フィールドワークからくる課題
負担の増加(学生、教員)

安全対策

関心・意欲のアンバランス

エコミュージアム日本村と「人々と植物の博物館」づくり

東京学芸大学環境教育実践施設教授 木俣美樹男 氏

エコミュージアム日本村と 「植物と人々の博物館」づくり

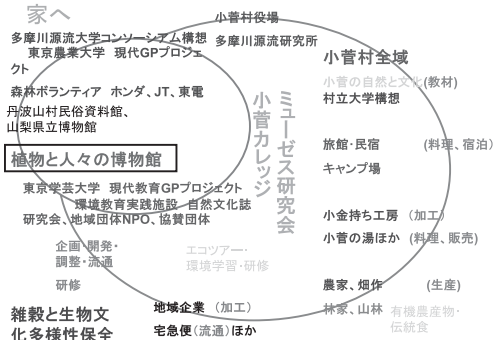
061108改定

木俣美樹男
東京学芸大学環境教育実践施設
植物と人々の博物館

内容

- 1) エコミュージアム日本村
- 2) 植物と人々の博物館
- 3) エコミュゼ小金井
- 4) 地域行政機関やNPO法人との協働の形
- 5) ELF環境学習プログラム(中堅指導者研修会)

エコミュージアム日本村: 今日から未来へ、外から家へ



植物に満ち溢れたエコミュージアム日本村

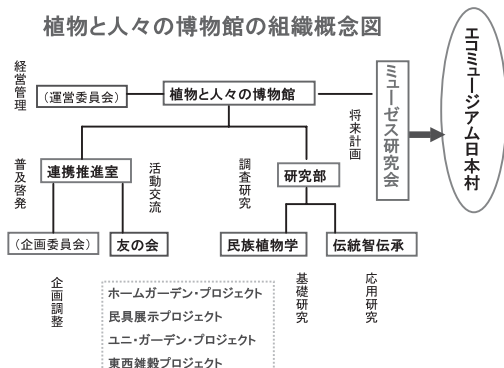
- 伝統的知識を学び、健全な心身を育む —
- 山村の豊かな暮らしへの生業・地域振興 —

心のこもった知恵と物事を提供する 「植物と人々の博物館」

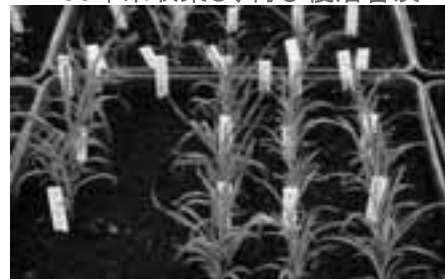
事業内容: (生物文化多様性の保全を中心に)

- 植物に関する民具、図書、標本等の公開・展示
および収集整理、収蔵
- 環境学習ELFプログラムの普及
- 環境学習ELF指導員(野人)の認証
- 民族植物学講座の実施、雑穀栽培の普及、生業の伝承
- 植物と人々の民族植物学調査研究
- 地域振興の企画、コンサルタント
- 草木の栽培、配布、むら中に花を咲かせる

植物と人々の博物館の組織概念図



雑穀在来品種の系統保存と活用 — 30年来収集し、再び復活普及 —



ホームガーデン・プロジェクト



雜穀在來品種野外展示畑



収穫を抑えたシヨクビエ



民具展示プロジェクト
中央公民館

- ・学大民族植物研究室の民具、標本、図書の整理：データベース、解説、HP、展示準備。
(これは研究室の作業と共通科目や専門科目の講義や実習の一部として、長期連続計画で行なう)
- ・小菅村教育委員会の上承により中央公民館にある小菅の民具を主にして、文化財審議委員の協力を得て、保存作業を加え、データベース作り、展示まで行う (これはプロジェクト学習科目の2年計画で行なう)

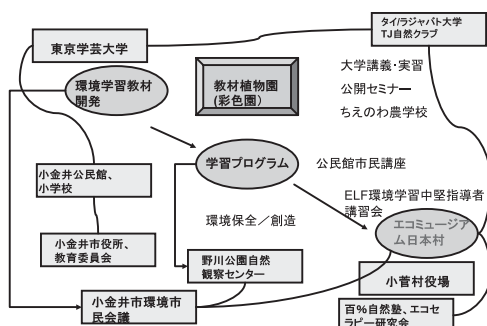
文化財審議委員(長老)から聞き取り実習



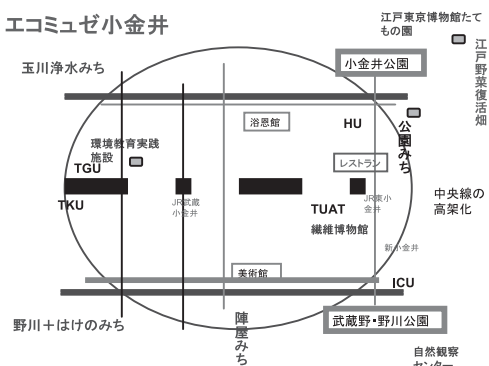
民具展示作業



地域知恵資源(伝統的生態知の保全)



エコミュゼ小金井



小金井市での連携プロジェクト

大学の知的創造機能を核として、青少年の能力を育み、持続可能な地域社会を創造する

- 小金井の地域資源を活用した自治体、環境市民会議、NPO及び地場産業関連企業群と有機的に連携した学生、地域住民参加の環境学習プログラムによる地域活性化

(湧水プロジェクト連携: 江戸野菜プロジェクト、自然再生プロジェクト)

- 和洋菓子組合との共同事業によるお菓子づくり、商工会の小金井夢プラン(東西雑穀プロジェクト/日本)

伝統的在来品種による商品開発 東西雑穀プロジェクト/日本

- 目的: 多摩川上流部の自然と文化の保全と中流部との学習(講習会、研修会、お祭り)や物産の交流を仲介する
- 材料生産: 小金井の江戸野菜
小菅の雑穀、豆、野菜、山菜、木材など
- 商品開発: 郷土料理、健康食、お酒、和洋菓子、味噌、ジャムなどの保存食

雑穀のお菓子開発



通学圏エコミュージアムづくり

- 目的: 小学校区に通学圏エコミュージアムを構想することを通じて、小学校と地域との交流を図る。
- 内容: 教科や総合学習、郷土学習などの教材として提供する。
- 担当者: 学大の講義・実習により、学生たちが、
- 方法: 小学校、教育委員会、PTA、地域住民、環境市民会議の協力を得て、地図や資料を作成する。

大学院環境教育サブコース「環境学特論」で作成した事例



ユニ・ガーデン・プロジェクト

目的: 大学キャンパスを、3年計画で、色香のある花木を育て、植え、彩り豊かにする。さらに、小金井や小菅にも苗木を寄贈する。

作業場所: 環境教育実践施設彩色園

協働団体:

学生環境系サークル; ちえのわ農学校、
青空教室、EKO

卒業生団体: NPO自然文化誌研究会

地域団体: NPOミューゼダグリ、小金井環境市民会議

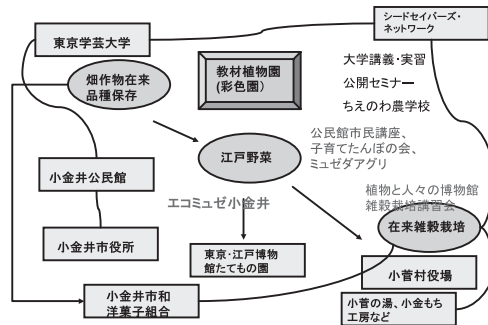
ツバキの挿し木による増殖



学生・地域住民との協働管理



地域生物資源(畑作物の生物多様性保全)



プロジェクト学習科目(2007-2008) 植物と人々の博物館づくり(案)

- ・基礎科目Ⅰ 山村の伝統的知識体系と植物
木俣美樹男(民族植物学)
- ・基礎科目Ⅱ 植物の色と草木染
中西史(植物学)
- ・応用科目Ⅰ 健康と長寿の郷土食
南道子(調理学・食物学)
- ・応用科目Ⅱ 文化財の整理と展示
服部哲則(文化財科学)
- ・総合演習: 植物と人々の博物館の展示民具の整理、
展示発表会 木俣ほか協力者
- ・講演会、ワークショップなど

要約

日本の伝統的生業文化を環境学習の基盤として、保全、伝承、再創造するエコミュージアム日本村づくりを行なう。このコア・ミュージアムとして「植物と人々の博物館」を創る。これらによって生物文化多様性を保全する。

- ・環境学習ビジターセンターの役割
自然と文化の紹介と研修(子どもから専門職までを対象に、環境学習手法ELFほかの開発普及を行なう)
- ・郷土資料館・図書館、大学公開民族植物学講座の役割
生活民具、植物製品などを収蔵展示
農山村、農林業、植物に関わる図書の収蔵閲覧
在来品種の野外栽培展示と復活普及